

【中学校第2学年の実践】

1 主題名

よりよい見方・考え方の探究 【A 真理の探究、創造】

2 教材

日本作曲界の開拓者 伊福部 昭（北海道版道徳教材（中学校用））

3 主題設定の理由【指導観】

(1) ねらいとする道徳的価値について【価値観】

真理の探究、創造とは、偏った狭い独善的な見方や考え方にとられることなく、うそや偽りのない本当の姿を大切に、いかなる力をもってしても否定できない普遍的な真理を探究し、新しいものを生み出そうとすることである。

第2学年の指導に当たっては、広い視野に立って多面的・多角的に見ようとする開かれた心や、結論を鵜呑みにせずに論理的・批判的に考える姿勢が大切であることに気付かせ、疑問や問いを探究し続けることが新たな見方や考え方の発見や創造につながり、自分の生涯を豊かにすることを自覚できるようにすることが必要である。

(2) 生徒の実態【生徒観】

広い視野に立って多面的・多角的に見ようとする開かれた心や、既成概念にとられず疑問や問いを探究し続け、新たな見方や考え方の発見や創造につなげていこうとする態度を育てるために、道徳の時間（H31からは道徳科）以外では、次のような指導を行っている。

①理科「物質の成り立ち」

真実や真理を求めて、既成概念にとられず、疑問や問いを探究し続け、工夫して新しいものを創造していこうとする態度を育てるために、身の回りにある物質が多種多様に富む理由や状態変化と化学変化の差異について、物質を構成する原子に視点をあてて考え、疑問をさらに探究する指導を行った。

根拠を明確にし、科学的に探究しようと、粘り強く取り組み、友だちと疑問や問いにこだわり、解を求めようとする姿がある一方、性急に結論を求めるあまり、一面的な見方になって「この視点で考えればいい」と思い込んでしまい、異なる視点からの考え方をもつことができない様子や、解に近付くことができないことで努力をあきらめてしまう様子が見られた。

疑問や分からないことにこだわり続け、積極的に新しい分野を切り拓いていく大切さやよさに気付かせるとともに、道徳的行為を実現しようという身構えについては自分との関わりでさらに考えを深める指導をする必要がある。

②特別活動「生徒総会（生徒会活動）」「学級審議（学級活動）」

学校全体の生活をよりよくするために役割を分担し、活動計画を立て、学校生活の課題を見だし、それを解決するために話し合い、合意形成を図り実践する指導を行った。

自分たちの生活を見つめ、各組織の活動の課題に気づき、解決しようとする姿が見られた一方、前年度の計画を前提に活動計画を立てたり、教師に示された結論を鵜呑みにしたりする姿があった。

よりよい学校生活を送ることができるよう、工夫して新しいものを創造していこうとする態度を育てることが必要である。

(3) 教材について【教材観】

疑問や問いを探究し続けることの大切さやよさ、真実や真理を追い求め、社会の発展や学問に貢献した人々の探究心を支えたものについて多面的・多角的に考えさせるために、自分にしかできない音楽を探究し続けた昭の気持ちを中心に話し合わせる。

そのために、一つ目の発問では、「昭は、アイヌの人たちとの出会いから、音楽をどのように捉えたのでしょうか。」と問い、真の音楽を追究しようとした昭の思いについて話し合い、人間理解を深められるよう働きかける。

また、二つ目の発問では、「海外やチェレプニンに認められるが、国内では酷評されている時、昭はどのような気持ちだったのでしょうか。」と問い、自分のつくりたい音楽を探究し続けた昭の気持ちについて考え発表させることで、人間理解・他者理解を深めることができるよう働きかける。

さらに、中心的な発問では、『真の美しさを発見するためには、教養と呼ばれるものを否定するくらいの心がまえが必要です』とあるが、なぜ否定する必要があるのでしょうか。」と問い、既成概念にとらわれず、疑問や問いを探究し続け、新しい見方や考え方の発見や創造につなげていこうとすることについて話し合い、価値理解・他者理解を深められるよう働きかける。

4 ねらい

伊福部昭の生き方に触れることを通して、広い視野に立って多面的・多角的に見ようとする開かれた心や、既成概念にとらわれず疑問や問いを探究し続け、新たな見方や考え方の発見や創造につなげていこうとする態度を育てる。

5 学習指導過程

	●学習活動 ○主な発問 ◎中心的な発問 ・子どもの反応	・指導上の留意点 ■評価	「考え、議論する道徳」 に向けた工夫
導 入	● 学校生活の中で工夫できることについてのアンケート結果を確認する。 ○ 1年半、学校生活を過ごしてきた「今、取り組んでいる方法ではなくて、こういう方法にすればいい」と考えたことはありますか。 ・あるが考えを表現したことはない。	・ねらいとする道徳的価値への方向付けとして、自己の生き方を振り返り、学校生活の工夫について想起させる場を設ける。	【工夫①】 ・自己の生き方を振り返ることができるよう、事前にアンケートを行い、結果をホワイトボードに掲示する。
展 開	● 教材「日本作曲界の開拓者」を読み、話し合う。 ○ 昭は、アイヌの人たちとの出会いから、音楽をどのように捉えたのでしょうか。 ・構えて作るものではない。 ・自発的に生まれるのが本当の音楽だ。 ・自分にしかできない音楽を作りたい。 ○ 海外やチェレブニンに認められるが、国内では酷評されている時、昭はどのような気持ちだったのでしょうか。 ・自分のやっていることは間違っているのかもしれない。 ・日本で評価されないことが辛い。 ・自分の作りたい音楽を作ればいい。気にせず続けよう。 ◎ 「真の美しさを発見するためには、教養と呼ばれるものを否定するくらいの心がまえが必要です」とありますが、なぜ否定する必要があったのでしょうか。 ・教養にとらわれない自分だけにしかできないものをつくるため。 ・アイヌの人たちが奏でた音楽を聴いた時の感動を表現するため。 ・今までのものを否定することで、新しいものが創り出せるから。	・昭が真の音楽を追究しようとしたことの意味について話し合い、人間理解を深めることができるよう働きかける。 ・自分のつくりたい音楽を探究し続けた昭の生き方について考え、人間理解・他者理解を深めることができるよう働きかける。 ・既成概念にとらわれず、疑問や問いを探究し続け、新しい見方や考え方の発見や創造につなげていこうとするについて多面的・多角的に話し合い、価値理解・他者理解を深めることができるよう働きかける。	【工夫②】 ・自分の作りたい音楽を探究し続けた昭の気持ちを考え発表させることで、別の見方・考え方に触れ、人間理解・他者理解を深めることができるようにする。 【工夫③】 ・ねらいとする道徳的価値について自分との関わりで考え、交流することを通して、別の見方・考え方に触れ、多面的・多角的に道徳的価値を見つめ、価値理解・他者理解を深めることができるようにする。
開	● 自己を見つめる。 ○ よりよい見方・考え方を求め続けるには、どのような心構えが大切だと思いますか。 ・自分らしさを発揮しようとする心構え。 ・よりよい考えが生まれるまで努力し続けようとする心構え。 ・自分の考えが批判される覚悟と周囲の考えを受け入れる柔軟性をもつという心構え。	・真理の探究、創造について自分の生き方を振り返り、自己理解が深まるようにする。 ■ 疑問や問いを探究し、新しい見方や考え方の発見や創造につなげていくことの大切さについて、自分との関わりで、考えを深めることができたか。	【工夫④】 ・ねらいとする道徳的価値について自分との関わりで考えさせることにより、自分の意見をもたせるとともに、その意見を基に交流することで、別の見方・考え方に触れ、人間としての生き方について考えを深めることができるようにする。
終 末	● 「私たちの道徳」36 ページ「人物探訪」を読む。 ● 本時の振り返りをする。 ・自分の考えだけではなく、広い視野に立って考えることが大切だと思った。	・真実を求め続ける心が自分の中にもあることを自覚し、疑問や問いを探究していこうとする態度が育まれるようにする。	

6 板書



7 ノート・ワークシート

○ よりよい見方・考え方を求め続けるには、どのような心構えが大切だと思うか。

② よりよい…自分の思っ通りの意見を出してみる。その意見が周りとは違うから、批判をうける。自分の考えを捨てる可能性があること、周りの考えに共感でき、その考え方を認められるという二つの心構えがあると、自分の意見を聞いてもらいながら、周りの意見、自分にながった意見を聞くことで自分が成長するんじゃないかと考えた。	・批判をこめてもあきらめない。
--	-----------------

○ 授業の感想

自分がやりたいから、周りがや、てるから、2は中学生らしくないの。自分はやりたいけど、周りはどうだろうと考えること大切だと思った。

「着る」に合わせなくてもいいのがいいと思った。

自分、道徳の授業でときに全部みんなの意見通りでなくていいと思った。

【授業実践を振り返って】

既成概念にとらわれず、疑問や分からないことにこだわり続け、新しい見方や考え方の発見や創造につなげていこうとすることの大切さやよさについて自分との関わりで多面的・多角的に考えることができるよう、中心的な発問を吟味し、「『真の美しさを発見するためには、教養と呼ばれるものを否定するくらいの心がまえが必要です』とあるが、なぜ否定する必要があるのでしょうか。」と問いかけました。

生徒からは、

- ・美しいものとの出会い（感動）を大切にするため（感動、畏敬の念）
- ・常識（教養の枠）にとらわれないため（新しいものを創造する）
- ・独自性（自分らしさ）を発揮するため（個性を発揮する）
- ・教養以上の高い目標を設定し、その達成を目指すこと（強い意志をもって行動する）

などの発言がみられ、「感動、畏敬の念」「創造」「個性の伸長」「強い意志」等の道徳的価値との関連を図りながら、自分との関わりで多面的・多角的に考え、「真理の探究、創造」について考えを深めることができました。